

超音波TOPICS2022

— 第48回超音波ドプラ・新技術研究会臨床報告集 —

序文

第48回超音波ドプラ・新技術研究会当番幹事
慶應義塾大学医学部放射線科学
陣崎雅弘

第48回超音波ドプラ・新技術研究会を2022年3月12日に完全WEBで開催した。ご参加頂いた皆様、演者・座長の先生方、協賛頂いた企業の皆様、運営に携わってくださったコンベンションの方に心から御礼申し上げる。WEB形式で参加費を無料にしたためか、通常開催の2倍の方がご参加くださり、想定以上の方に視聴して頂いたことを大変ありがたく思う。

私自身は放射線科医で、CTやMRIを専門にしているが、超音波検査の簡便性や工夫次第で上達していく感じが好きで、入局1年目の最初に超音波検査をローテーションして以来業務としてずっと関わってきており、学位も超音波診断学で頂いた。このため、伝統ある超音波ドプラ・新技術研究会の当番幹事を担わせて頂いたことを大変光栄に感じている。

今回はメインテーマを「超音波診断の新展開」とし、特に主題ではこれまで取り上げられていなかったAIやITの演題を積極的に募集した。その結果、従来の肝臓のエラストグラフィや造影エコー法の演題に加えて、目新しい切り口の演題が多いことが今回の特色である(全体プログラムは裏面を参照)。

まず一般演題は、従来通り肝臓の症例報告がなされ、活発なご討論を頂いた。特別講演は、超音波、CT、MRIのいずれにも造詣の深い日本大学放射線科 岡田真広先生に、肝の線維化のCT・MRI診断の最近の進歩について超音波と対比しながら話してもらった。CTやMRIの最新を知ることで超音波の役割の位置づけを再認識することができた。続いて、教育講演は、慶應義塾大学形成外科 梶田大樹先生に、光音響現象を利用して得られる超音波を可視化する今話題の光超音波検査の現状を話してもらった。近赤外光で励起される色素を用いることで主にリンパ管の可視化を目的とした活用についての内容で、「超音波診断の新展開」の代表的な研究であると思う。そして、主題演題は、「新技術を活用した超音波検査の更なる発展」という副題をつけ、最初の4題は深層学習を用いた超音波診断に関する内容、残りの3演題はITを用いた超音波検査の効率化の内容であった。中でもITの3演題は、超音波診断装置内蔵のソフトの活用法と院内の超音波台数管理システムについての実装可能な内容で、多くの視聴者に関心を持って頂けたと思う。

全体を通して、光超音波、AI、ITなどの新技術を前面に押し出した企画とすることで、まさしく「超音波診断の新展開」を感じて頂けたとすればこの上ない喜びである。最後に、本特集号に論文投稿して頂いた著者の方々にこの場を借りて深く御礼申し上げたい。